

業務用空気清浄機 『アースプラス・エアー』 導入事例報告



特定・特別医療法人慈泉会 相澤病院

・はじめに

業務用空気清浄機『アースプラス・エアー』の販売が開始してから3ヶ月が経過。

長野県松本市にある同県内初の地域医療支援病院で中信地方救急指定病院でもある相澤病院を訪問。**(財)日本医療機能評価機構***認定病院で、中信地方の民間病院としては最大規模の医療機関として地域に密着した医療を提供している。

現在本機を16台導入。現場での運用形態、導入後の経緯などを担当者に伺ってきた。



* **日本医療機能評価機構**とは…病院を始めとする医療機関の機能を学術的観点から中立的な立場で評価し、その結果明らかとなった問題点の改善を支援する第三者機関。全国病院数 8892 中、2430 病院が認定を受けている。

1. 相澤病院内の空気清浄機ニーズとその実態

発売開始より相澤病院へ導入され、運用されている16台の『アースプラス・エアー』は、入院病棟各階・診療、処置室などで、特に強い臭いを発する汚物処理置き場に設置されており、常時運転を行っているが、消臭対策としての仕様が主となっている。

担当看護師からの強いニーズは「脱臭・消臭」とのこと。

消臭以外での、本機の特徴である抗ウイルス性・集塵性能については汚物汚染阻止などの補助機能としての効果を望まれている。

実機運用とは別に、採用される際の要素としてはインフルエンザAのエビデンスは非常に有効であり、汚物からのウイルス・一般細菌による感染対策としての側面もある。

2. 現場の様子

本館の泌尿器科と本館・新棟それぞれ2ヶ所ずつ、計5ヶ所で運転中のアースプラス・エアーを案内して頂く。

●泌尿器科の現状

・現場担当者からの声

以前は処置室にて、糞尿の臭いと化膿臭の強烈な激臭が常にあった。また、処置室と診断室は繋がっており、人の出入りが多いことも含め、処置室と診断室を空間的に分けることができず、結果的に処置室から発した臭いが診療室へ、診療室から待合へと溢れ、臭いの問題はクレームが入るほどになっていた。

泌尿器科から発する激臭は主に処置室が原因とされているが問題解決の提案として、アースプラス・エアーを導入。導入後、問題は解決。



泌尿器科で運転中の e+

●汚物処理室（本館・ゴミ置き場）

・現場担当者からの声

各病棟・各階の汚物処理室は使用済みオムツをはじめ、慢性的な臭いを発している。

また、本館の汚物処理室での糞尿臭いは既に取り除くことはできない段階（薬品だけでは不可能）で、アースプラス・エアーを試験的に導入した際、劇的に環境が変わった。

従来、汚物処理室は出入りも激しく扉は常に開け放しているため、側によるだけで臭った。

現在は、直接的な異臭を発する汚物がむき出している時のみの異臭。

汚物をゴミ箱へ捨て、蓋をすると臭いは消え、廊下などへ漏れることもない。アースプラス・エアーを止めれば違いは明らかであるとの弁。

アースプラス・エアーの運転を止めた理由はお尋ねしませんでした。『臭う』と思った時には、空気清浄機が止まっていたことがあったそうです。



汚物処理室で運転中の e+

新館には臭いがこびりつかないように配慮した結果、既に評価を得ていたアースプラス・エアー（新型）を追加導入。

現在新館3F、4Fの汚物処理室に設置、常時稼働中。汚物処理室（新館）は糞尿臭は感じられなかった。

どの場所でも、現場からの声は「嫌な臭いがなくなった」と好評だった。